



平成 19 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 アールビバン株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 野澤克巳
問合せ先 総務部総務グループ 柴田 航
電話番号 03 - 5159 - 7177
(コード番号 7523 JASDAQ)

中間業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

平成 19 年 5 月 22 日に公表いたしました平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の中間業績予想について、下記のとおり修正するとともに特別損失の発生についてお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期 中間連結業績予想の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	4,900	510	520	260
今回修正(B)	4,500	510	550	190
増減額(B-A)	400	0	30	70
増減率	8.2%	0.0%	5.8%	26.9%
[参考]前期実績 (平成 19 年 3 月中間期)	5,121	422	479	489

2. 平成 20 年 3 月期 中間個別業績予想の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	1,990	140	80	60
今回修正(B)	1,850	30	70	180
増減額(B-A)	140	110	150	120
増減率	7.0%	-	-	-
[参考]前期実績 (平成 19 年 3 月中間期)	2,602	223	109	1,027

3. 特別損失の発生及びその内容

【貸倒引当金繰入額の計上】

当中間期の個別決算において関係会社の財政状態が悪化したことにより、関係会社貸付金に対して貸倒引当金繰入額 153 百万円を特別損失に計上することといたします。

【投資有価証券評価損の計上】

当中間期の個別及び連結決算において保有する株式のうち、時価が取得価額に比べ 50% 以上下落したものについて、減損処理を行い投資有価証券評価損 64 百万円を特別損失に計上することといたします。

4. 業績予想の修正理由

【売上高】

アート関連事業については引き続き、顧客優待展「ジャパン・アート・エキスポ」をメイン催事と位置づけ、効率を重視した催事を実施し、新規顧客開拓に主眼をおいた営業活動に注力してまいりましたが、成約率の低下等もあり、売上計画未達となりました。

リゾート事業については、ホテルの稼働率は計画どおりに推移したものの、料飲部門及びセラピー部門の利用率の低下もあり、売上計画未達となりました。

健康産業事業については、「カルナ フィットネス&スパ」は着実に会員数を増やしているものの計画会員数には及ばず、計画未達となりました。

これらの理由により、連結・単独売上とも当初予想売上高を下回る見込みであります。

【経常利益】

売上の減収に合せて販売促進費、会場費の削減や事業所閉鎖による固定費圧縮に努めたことにより、前回の業績予想に対し経常利益は、連結で 30 百万円増の 550 百万円、単独では 150 百万円増の 70 百万円となる見込であります。

【中間純利益】

投資有価証券評価損 64 百万円を特別損失に計上すること等により、前回の業績予想に対し、連結で 70 百万円減の 190 百万円、単独では投資有価証券評価損の他、関係会社に対する貸倒引当金繰入額 153 百万円を計上したことにより中間純利益は、120 百万円減の 180 百万円となる見込みです。

なお、通期の業績予想の見通し（連結・単独）につきましては、中間決算発表時にお知らせする予定であります。

以 上